

2025 年度 活動報告書

(2025 年 4 月 1 日 ~ 2026 年 3 月 31 日)



こつずいばんくをよろしくね



HELLO KITTY

I collected all things red!
I wonder what's inside the small gift...



特定非営利活動法人
全国骨髓バンク推進連絡協議会

〒101-0031

東京都千代田区東神田 1 - 3 - 4 KTビル3階

TEL : 03-5823-6360 FAX : 03-5823-6365

<https://www.marow.or.jp/>



会長挨拶

私たち全国骨髓バンク推進連絡協議会は、日本骨髓バンクを市民の立場から支え、ドナーを増やし、移植医療の発展を推進し、患者さんに寄りそう活動を続けている全国の32団体が加盟しているボランティア団体です。

白血病など血液疾患の患者さんのための無料電話相談「白血病フリーダイヤル」の運営やハンドブック「白血病と言われたら」の発行や、ドナーを増やすため献血会場での登録会やイベント出典などで普及啓発をおこなっています。

非血縁者間の幹細胞移植が3万例に達するも、いまだドナーが見つからない患者さんが存在します。若年層の登録者数の伸び悩みや治療費の負担、医療の地域格差など課題もありますが、一人でも多くの患者さんを救うため、行政・医療機関・関係団体との連携を強化し、全国のボランティアの数多い仲間とともに、いのちをつなぐ活動をさらに推進していきます。

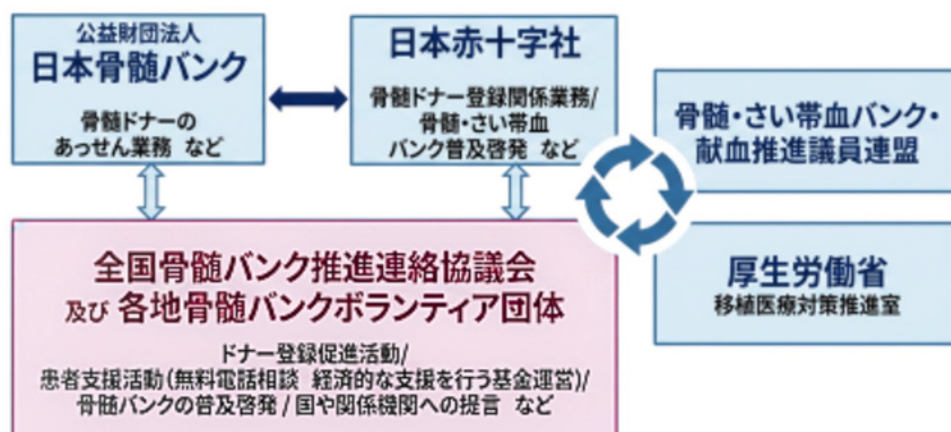


淡谷 俊徳

関係機関との連携

より良い骨髓バンクと医療制度の充実のため、国や骨髓・さい帯血バンク・献血推進議員連盟、日本赤十字社や日本骨髓バンクとの連携、また、提言を行っています。

2025年度は、ドナー休暇制度をさらに多くの企業に対して導入を促してほしいという要望と、ドナーの骨髓採取時における入院差額ベッド代を患者負担としないよう配慮してほしいという提言を、骨髓・さい帯血バンク・献血推進議員連盟へボランティアの声として働きかけました。その結果、要望・提言を盛り込んだ「骨髓バンクおよび臍帯血バンクの支援等に関する決議」が厚生労働大臣へ提出され、その後厚生労働省から前向きに検討しているという経過が議連総会で報告されました。



「骨髄バンク」と「さい帯血バンク」

骨髄バンクとは？

白血病など血液の病気で、骨髄移植治療が必要な患者さんには白血球の型であるHLA型が適合するドナーさんが必要です。

血縁者に該当者がいない場合は“骨髄バンク”に登録しているドナー候補者から探します。

「公益財団法人日本骨髄バンク」は患者さんにドナーをあっせんする国内唯一の事業体です。

新規患者登録数 1,920人
採取実施数 1,038例
(2025年度実績)
ドナー登録現在数 564,155人
(2026年3月末現在)

さい帯血バンクとは？

赤ちゃんとお母さんをつないでいた“へその緒（さい帯）”には骨髄液同様に造血幹細胞（血液の元になる細胞）が含まれています。出産後にさい帯血を提供していただき、検査・精製・保存をしているのが「さい帯血バンク」です。全国に3事業所6カ所で運営しています。各公的さい帯血バンクが提携している産科施設で提供できます。

移植症例数 1,381例
(2025年度実績)
さい帯血保存公開本数 10,767本
(2026年3月末現在)

骨髄バンクドナー登録推進活動

全国各地のボランティアがドナーを増やすため、日本骨髄バンクの登録説明員として献血会場などで活動をしています。2025年度は首都圏の団体が連携し、都内の大学での登録会の回数が増加し、若年層ドナー増に寄与しました。また、スワブオンライン登録のトライアルが行われ、広報に協力しました。

2025年5月22日
 **ドナー登録者数 100万人到達！**

2025年10月31日
 **累計移植例数 3万例到達！**



2025年度実績
ドナー登録会 実施回数3,059回
新規ドナー登録者数12,431人

このほかにも全国の献血ルームなどでドナー登録が行われています。

患者さんを経済的に支援する基金

血液疾患の治療は長い期間が、そして高額な医療費がかかります。
患者さんやご家族の不安をひとつでも取り除くよう、支援基金を運営しています。

佐藤きち子記念 造血細胞移植患者支援基金

【移植費用を助成】

きち子基金は設立30周年を迎えました。これまでの助成累計額は1億円を突破しています。



あやちゃんとの出会いから始まった

白血病の闘病中に7000枚もの絵画を残し旅立った、あやちゃんの画集に感銘を受けた佐藤きち子さんが「骨髄移植を望みながら経済的な理由で移植できない患者さんのために使ってください」と、あやちゃんのお父さんに託された寄付金で設立した基金です。

骨髄バンクを支援する東京の会から1996年に全国協議会に移管され皆様からのご寄付を積み増して運営しています。



2025年度助成実績
助成件数 32件
助成総額 6,502,345円
累計
助成件数 416件
助成総額 106,657,862円

志村大輔基金

【分子標的治療薬費用を助成】

分子標的薬は長く服用する必要があり、それはとても高額な薬です。「高額療養費制度」の適用で医療費の上限はあるにしてもその負担は大きなものです。基金設立当初からの申請者もいらっしゃいますが、新規申請者も増え、助成総額は年々増加しています。

2025年度助成実績
助成件数 126件
助成総額 6,094,000円
累計
助成件数 959件
助成総額 48,792,000円



妊孕性温存療法・生殖補助医療

抗がん剤治療や骨髄移植など、白血病の治療により妊孕性（赤ちゃんを授かる力）が消失する可能性があります。治療の先にパパママになるという選択肢を残すため、精子・卵子の採取保存費用を助成しています。

自治体にも助成制度はありますが、その助成額では賄えなかった費用や自治体ではほとんど対象としていない継続保存費用も助成しています。

志村大輔基金（精子保存）

2025年度助成実績

助成件数 6件
助成総額 100,760円

累計

助成件数 116件
助成総額 3,924,043円

こうのとりのマリン基金 （未受精卵子保存）

2025年度助成実績

助成件数 4件
助成総額 521,827円

累計

助成件数 45件
助成累計 7,662,601円

医療情報提供・患者相談窓口

「白血病フリーダイヤル（0120-81-5929）」

血液疾患の病気について、治療についてご患者さんご本人やご家族の相談を受けています。

血液専門医のほか、元患者や医療情報に詳しい相談員が対応します。

第2・4土曜日10時～16時に開設しています。

白血病フリーダイヤル創設30周年「開設秘話」

白血病フリーダイヤルは1996年7月13日に開設され、30周年を迎えました。きっかけは同年5月、東京の会の箱根合宿帰りのロマンスカー車内で、患者家族である会員3名が「相談できる場所が必要だ」と議論したことでした。電話相談窓口の開設で合意し、全国協議会運営委員会の議決を経て実現。初回は専門医も参加し、全国初の白血病専門フリーダイヤルとして電話が途切れないほどの反響がありました。この相談活動から「ハンドブック白血病と言われたら」第1版の発刊や、佐藤さち子基金の普及にもつながっています。現在も回数を重ねており、貴重な相談窓口として今後も続くことを願っています。

（全国協議会ニュース406号掲載文より
骨髄バンクを支援する東京の会・三瓶和義さん）

開設累計1,342回
相談数累計9,426件

ハンドブック「白血病と言われたら」



病初期の患者さんやご家族のためのハンドブックです。2025年5月に第7版を発行しました。血液専門医だけではなく整形外科、歯科口腔外科などからの医療情報や、闘病に役立つ公的・私的な支援情報も掲載しています。患者さんや支える家族からの体験談も多数掲載されています。

全国約200人の移植コーディネーターを通して移植を行う認定診療科、医療相談室などに頒布しました。

総発行部数 59,000セット

無料ダウンロード
累計8,187件

イベントでの啓発活動

設立35周年2025全国骨髓バンクボランティアの集い in 名古屋

2026年5月24日（土）、設立35周年となる記念すべき集いは、実に6年ぶりに東京以外での開催となり、「あいち骨髓バンクを支援する会」を主管として名古屋の地で開催しました。骨髓バンク事業とは異なった領域で患者支援を行っている団体の状況、課題などについて聞き、交流を図ることで患者や患者家族を取り巻く環境を、さまざまな立場からの視点・考え方を知ることができました。



東京箱根間往復大学駅伝競走



2026年1月2日（金）・3日（土）の2日間、箱根駅伝沿道では「骨髓バンク」のノボリを持ってランナーに声援を送りました。また、テレビ中継の中で骨髓バンクのノボリが映ることで、お正月も病室や自宅で闘病する患者さんにむけて「あなたは決してひとりではありません」と応援のメッセージを送りました。

東京マラソン2026チャリティ

2026年3月1日（日）に開催された東京マラソン2026チャリティに昨年に続き、寄付先団体として参加しました。

2月26日（木）～28日（土）の東京マラソンEXPO 2026ではチャリティランナーの方々との交流を行い、また、寄付先団体ブースにお立ち寄りいただいた一般来場者の方に骨髓バンクについてお話をさせていただきました。当日はフィニッシュ後に個別ラウンジを設営し、寛ぎの時間を過ごしていただくと共にパネル展もご覧いただきました。沿道ではボランティアがノボリを持って応援をおこないました。



©東京マラソン財団

全国各地での活動

～さまざまな形の患者支援や啓発～



医療講演会・患者相談会

患者さんに正しい、また、最新の医療知識を伝え、前向きに療養生活を送っていただくための講演会や、血液内科医との個別の医療相談会を開催しています。同じ病気を克服したボランティアも闘病中の患者さんの相談相手となっています。



患者さんへのプレゼント

こどもの日、クリスマスなど折々に小児科に入院中のこどもたちや保護者の方に文房具や生活用品などをプレゼント。また、手作りのケア帽子を贈るだけではなく、看護大学の学生さんに製作講座を行っている団体もあります。



コンサート・上映会

高校で骨髄バンク関連映画の上映会を行ない、命の大切さについて考える機会を提供しています。また、各地でチャリティコンサートが開催されています。演奏の合間には元気になった患者さんや提供したドナーなどが骨髄バンクの大切さなどを伝えています。



パネル展

白血病治療に立ち向かいながら想いを込めて描かれた絵画のパネル展を開催しています。ドナーさんへ元気になった今の想いを感謝とともに伝えるメッセージ展も始めています。「改めて命の大切さを感じた」「頑張る勇気をもった」などの感想が寄せられています。

2025年度決算報告

経常収益

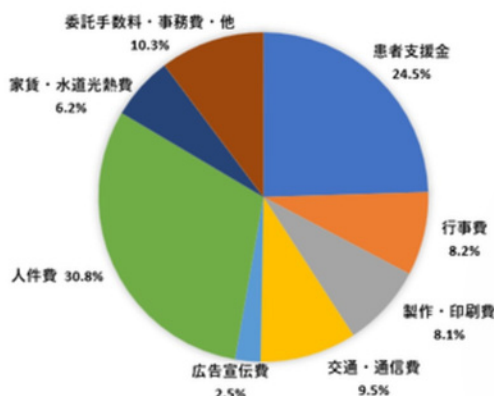
単位：千円

科 目	2025年度決算額
会費収入	312
賛助会費	1,434
寄付金	52,411
継続寄付	676
募金箱	18,149
販売収入	2,489
その他	314
合計	75,785

経常費用

単位：千円

科 目	2025年度決算額
患者支援金	13,219
行事費	4,425
製作・印刷費	4,368
交通・通信費	5,100
広告宣伝費	1,342
人件費	16,586
家賃・水道光熱費	3,351
委託手数料・事務費・他	5,531
合計	53,922



当期増減額	21,859
次年度繰越額	117,826
(うち患者支援基金)	55,814

全国協議会は皆様からの温かいご寄付を力として活動を続けています。患者さんの未来を支える取り組みを継続するためには、安定した支援が欠かせません。どうか私たちの使命を共に支えてください。皆様一人ひとりのご支援が、いのちをつなぐ力になります。

全国の仲間

全国協議会の加盟団体

北海道骨髄バンク推進協会
 釧路骨髄バンク推進協会
 函館骨髄バンク推進協議会
 青森県骨髄バンク推進協議会
 骨髄バンクを支援する宮城 I・O・K
 秋田県骨髄提供者を募る会
 骨髄バンクを支援するやまがたの会
 福島県骨髄バンク推進連絡協議会
 群馬県骨髄バンク推進連絡協議会
 埼玉骨髄バンク推進連絡会
 千葉骨髄バンク推進連絡会
 骨髄バンクを支援する東京の会
 骨髄バンクを支える友の会
 神奈川骨髄移植を考える会
 特定非営利活動法人骨髄バンク命のアサガオにいがた
 富山県骨髄バンクを広める会

いしかわ骨髄バンク推進・はとの会
 山梨県骨髄バンクを推進する会
 特定非営利活動法人骨髄バンク長野 ひまわりの会
 岐阜骨髄献血希望者を募る会
 認定特定非営利活動法人あいち骨髄バンクを支援する会
 三重県骨髄バンク推進連絡協議会
 滋賀骨髄献血の和を広げる会
 NPO法人 関西骨髄バンク推進協会
 姫路地区骨髄バンク推進センター
 神戸骨髄献血の和を広げる会
 なら骨髄バンクの会
 一般社団法人 ART LINK
 骨髄バンクを支援する山口の会
 とくしま骨髄バンクを支援する会
 特定非営利活動法人小児がん・まごころ機構
 かごしま骨髄バンク推進連絡会議

(2026年7月現在)